

【経済産業大臣賞】【水の作文大賞】くまTOMO賞

水の旅

熊本市立出水中学校 一年 清水 遥

私は川の上流で生まれた水です。

そこは流れが速く、ゴツゴツした大きな岩が沢山ありました。流れが速く、水温が低いのでヤマメなどが住んでいます。水の中で暮らすトンボなどの幼虫もいるようです。見上げると川にはり出した枝の上に鳥たちがとまっています。魚をねらっているのかな。水の周りには多くの生き物たちがいるのです。

中流にやってきました。中流は上流に比べて流れがゆるやかで、周りに家も増えてきました。昔は、川原で遊ぶ子供達が多かったんだって。今はあんまり子供達が来なくなって少しさみしいな。流れがゆるやかな中流の岩にはコケが生えています。このコケをアユが食べます。また、そのアユを釣ろうとチャレンジしている人もいます。

私は、細い別れ道に入ってしまった。取水口です。そこから用水路に流れて行きカラカラに渴いた田んぼの土の上を走り出しました。土は、みるみるうちに水びたしになりました。

「ゴゴゴゴ……。」
という音がします。田植えです。大きな機械で沢山の苗を植えていきます。何日かするとおたまじゃくしやアメンボなどの生き物がやってきました。秋の収穫まで見ていたいなと思つたとき、私は地面に吸い込まれるように土の中に落ちていきました。

そこは、真つ暗。そこには水の仲間達がたくさんいました。他の水たちは同じように田んぼ、川からきたり雨となってきたようです。真つ暗な中で私は眠くなってきました。

目を覚ますと、体がだんだんに押し上げられていくところでした。ブワツとみんなと一緒にあふれ出します。ここは、熊本市の動植物園の

近くにある自噴井です。

なんだか、体に薬の匂いがする。水を殺菌しているのです。消毒が終るとまた、水のたまり場にやってきました。今度は、配水池。水道に通す水を貯めるところです。

細い管のながーい道を通り、広げたところに出ました。どんどん仲間が増えてたまつていきました。お風呂です。だれか、お風呂に入ってきました。お湯になった私達につかり、体を温めているようです。しばらくするとお風呂の電気が消えてしまいました。浴槽の下の方からゴゴゴゴ……という音がします。吸い込まれて落ちていってしまいました。

また、真つ暗な所に出ました。体が自由に動かさずベトベトしています。そこは、下水でした。それから下水の水が溜まっているところにやってきました。私の体はいよいよドロドロです。でも、流れにのったり溜められたりしているうちに、そのドロドロが少しずつはがれ落ちていきました。それを何回も繰り返すうちに、体が透き通つてみえてきました。そして最後に消毒をされ、川へと流されました。

体がしよっぱくなってきました。ここは海ですね。しばらく波に揺られていました。天気が良くていい気持ち。すると、
「あつ。」

急に体がふわっと浮かび上がりました。蒸発しているのです。空の上までやってきました。それから仲間が集まってきた、小さな雲になりました。まわりには他にも小さな雲たちが沢山あります。その小さな雲と合体し、大きな雲になるとひとりずつ雨になって落ちていきました。

降ったところは知らない町でした。私を大切にしてくれる人たちが多い町だといいな。